

第6学年 国語科実践事例モデル(在籍学級)

(1) 単元(または題材)名

「生活の中の敬語」

(2) 対象児童の状況

対象児童	母語 (出身国)	日本語習得状況	国語科に関する力
A	タガログ語 (フィリピン)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 渡日9年目 ・ 日常会話では、日本語を問題なく使用することができるが、相手や時と場合による使い分けは難しい。 ・ 両親は主にタガログ語を使うが、家庭内ではタガログ語と英語、日本語が混在した状態で日常会話がなされている。 ・ 映画は、すべて字幕なしの英語で視聴できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3歳のころから来日しているため母語での学習歴はない。 ・ 既習漢字についてはテストで点が取れるため、一見定着しているかのように見えるが、使う言葉として定着はしていない。 ・ 語彙力は低く、テストやプリントの設問の意味を理解できないまま答えてしまう傾向がある。

(3) 単元(又は題材)の指導方針

- ①丁寧語、尊敬語、謙譲語がそれぞれどのような人間関係のときに使われる言葉なのかが視覚的にわかるような挿絵を使用する。
- ②丁寧語を尊敬語に直す時の日本語表現の支援としては、「先生に対して話す時にはどのように言えばいいかな?」「妹に対してはこのような言い方はしないね。」などと具体的に対象者を設定する。
- ③「食べてください」を「めしあがってください」と言い換える場合は、「○○○○○てください」などと○の中に入る文字を考えさせるというヒントを与えることにする。
- ④色々な場面の中で適切な敬語が使うことができるようにするため、ペア学習を取り入れて友達と一緒に例文を読み合い、敬語を使わない言い方と敬語を使った言い方との違いを感じさせる。
- ⑤日常的に使われる例文を提示するときは、イラストも入れた視覚的なものを準備することで理解を促す。

(4) 単元(又は題材)の目標

【教科の目標】

- 敬語が使われる場面や使い方を理解し、敬語を使おうとする。
- 生活の中でよく使われる会話文を丁寧語、尊敬語、謙譲語を使って表現できる。

【日本語の目標】

- 日本語には、目上の人に対する話し方があるということを理解し「めしあがる」「おっしゃる」などの尊敬語を使えるようになる。

(5) 単元の指導 (全3時)

次	学習活動	教師の働きかけ (発問○) 日本語表現の支援 (●)	指導上の工夫・留意点 (板書・ワークシート等)
1	<ul style="list-style-type: none"> 5年生で学習したことを振り返る。 敬語表現を探す。 全体で話し合う。 	<p>○「敬語」は、どんな言葉ですか。 ●文の終わりに「です」「ます」を付けたら「丁寧語」になります。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">○「丁寧語」のほかにどんな「敬語」があるでしょう。</div> <p>・「です」「ます」の他に、より丁寧な表現がないか着目させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「です」「ます」を使った表現と使っていない表現を比較して、どのような印象を受けるか考えさせる。 日常生活での自分の言語生活を振り返らせ、どのような場面で敬語を使っているか考えさせる。
本時 (次) の目標			
<p>①教科の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中で、敬語を使わなければならないのはどんな時があるかを考えることができる。 例文を丁寧語や尊敬語の文章に直し、それを使って友達や教師と話すことができる。 <p>②日本語の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 「食べて」を「食べてください」や「めしあがってください」などの、丁寧語や尊敬語に直すことができる。(ターゲットセンテンス:「めしあがってください」) 			
2	<ol style="list-style-type: none"> 前時を振り返る。(丁寧語・謙譲語・尊敬語を確認する。) 敬語を使用すべき場面を考える。 本時のめあてをつかむ。 	<p>○敬語にはどんな種類がありましたか?</p> <p>○丁寧語や尊敬語はどんな時に使わなければならないと思いますか?</p>	<ul style="list-style-type: none"> 三種類の内、本時では主に丁寧語と尊敬語を扱うことを伝える。 「質問する時」「来客があった時」「電話で話す時」など、敬語を使用すべき場面を想像することにより、自分の生活を振り返らせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">いろいろな会話を丁寧語や尊敬語に直してみよう。</div>			
	<p>4. 具体的な場面で、適切な敬語に言いかえる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><シーン②> 児童:「もしもし、あきらくんおる?」 あきらの母:「はい。あなただれ?」 児童:「6歳の○○。」</p> </div>	<p>○例文を見て、丁寧語に変えた方がいいと思うところはどこでしょう。</p> <p>○丁寧語に直した文章の中で、尊敬語に直した方がよい文を探しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの例文で、どのように話せば敬語になるのかを考えさせる。(一人学習・ペア学習)

<シーン③>
 児童：「先生、クッキー。」
 先生：「……………」
 児童：「クッキー家庭で焼いたんさ。たべていいよ。」
 先生：「ありがとう。」
 児童：「もう一つ食べる？」

5. シーン③の例文を使って、目上の人に話す練習をする。

●両親や先生に対して話すような言葉に変えた方がいいところはどこでしょう？

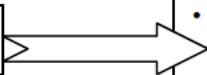
○となりの友達と役割を決めて、読み合ってみましょう。

●「食べる」の尊敬語は、「○○○○」です。(○の中にあてはまるひらがなを入れましょう。)

●「もう一つ食べる？」は、「もう一つ○○○ですか？」となります

○教室にいる先生に正しい尊敬語を使って、クッキーをすすめましょう。

シーン②の場面



・話し合い活動をもとに、例文を正しい敬語(まずは丁寧語に直し、尊敬語に直せるものを探していく。)に直していく。直した例文を実際に話してみる。(ペア学習)

【ポイント1】

食べる=めしあがる

同じ意味であるが、目上の人には、「めしあがる」を使う。同じ意味だということを明確にしないと対象児童は言葉が変わると意味も変わると捉えてしまう可能性がある。

対象児童が分からなければ、「どうですか」の丁寧な言い方は「いかがですか」というヒントを出す。

・尊敬語を使った例文と使わない例文を比べ、印象の違いを感じさせる。

・母親の「あなただれ？」は相手が年下であっても、その話し方でよいのか気づかせたい。気づかない場合は、学習活動2に関連させていく。

(評価)

- 例文を適切な表現に直すことができる(言語)
- すすんで敬語を使おうとしている(関心・意欲)

6. 学習の感想を出し合う。

3

・敬語の種類について復習する。

・謙譲語の表現を探す。

●「丁寧語」「尊敬語」の他にもう一つ「敬語」があります。何でしたか。

○「謙譲語」です。

○「謙譲語」を使って話してみよう。

・3種類の敬語について確認する。

(6) 板書及びワークシート・配付資料**(7) 単元を通じての成果と課題**

- ・敬語の説明や例文を提示する際、教師や児童などのイラストを取り入れたことにより、どの児童も意欲的に授業に参加できた。
- ・今回の単元で、対象児童にとっての日本語の敬語についての理解が、「～です。～ます。」の丁寧語だけであるということが浮き彫りにされた。またここにも、対象児童の日本語の課題があったといえる。本時で対象児童は、これ以上何をどう直せばよいかわからない様子であった。

【ポイント1】

そこで、「めしあがる」や「いらっしゃる」などの尊敬語の表現を授業後に復習した。

- ・ワークシートの工夫としては、例文を作る際、敬語に直す部分にあらかじめ下線を引いておくことさらに取り組みやすいものになったと考えられる。対象児童以外でも「敬語」は難しい日本語であるので、対象児童にとってはなおさらである。しかし、今後、日本の社会で生活していく上で重要な日本語表現の一つである。今回の「敬語」の学習から国語科における課題と、新たな日本語の課題が見出された。国語科に特化せず、全ての教科での言語活動のあり方も問い直し、さらに充実させた授業を工夫していかなければならない。また、日常の言語生活を大切に、正しい日本語を身に付けさせていきたい。

【ワンポイントアドバイス】**【ポイント1】 相手によって言葉を使い分ける場合の指導について**

敬語は授業にあったように対象児童にとってつまずきやすい単元であるといえます。この授業は、視覚的支援がかなり取り入れられていたため、自然に理解できたかもしれませんが、しかし、対象児童の日本語習得状況の違い等、視覚支援だけで効果が得られない場合があります。敬語の授業では、もとの動詞（食べる）とその敬語（この場合は尊敬語、召し上がる）が同じ意味の言葉だと明確にすることが最も重要です。

多くの日本人児童は、たとえ敬語を使えなくても、「召し上がる」の意味は理解できます。しかし、対象児童には、「召し上がる」はまったくの新単語であるため、「食べる＝召し上がる」という前提がない場合があります。その前提がないままだと、敬語の知識は積み上げられません。＜同じ意味だが、使う相手によって使い分ける＞という概念は、もともと予備知識として持っていない可能性が高いので、それを指導することがポイントとなります。